

大用現前

第24号

筆入れ：高一郎代表

2017年11月吉日発行

発行人：サトウ・オカダ・ヤマモト・ハセガワ・カワカミ・タカハシ・クリバヤシ (PJ6 ザビリペロ)

代表インタビューから

世の中には様々な職種や会社がありますが、日本の会社の平均寿命は約24年と言われ、しかも、その中でも創立してから100年以上も続いている会社も沢山あり、2017年現在で日本の創立100年を超える会社は3万3069社もあるそうです。さらに世界と比較しても、創業200年以上の企業の数」が最も多い国は日本であり、1位日本（3113社）、2位フランス（331社）、3位ドイツ（1563社）と、2位のドイツと比べても約2倍の差が開いています。

100年以上も続いている会社の気になる共通点は、ビジネスを単なる金儲けの手段と捉えず、社会的な意義を持って行動していること。神木・祭事・仏事に非常に重きを置いていることが長寿の秘訣だとされています。いすれにしても、社会的な意義について口先や理念だけでなく、会社としての行動に反映されているかどうかが重要なのでは

カインズグループも創立90周年が目前ですが、今回はここまで会社が続いた秘訣について代表にお伺いしました。

代表が思う会社が続いたポイントには「社員が当たり前のことをきちんと行ってきたから」。確かに社員それぞれには課せられた業務や責任があり、それをきちんとこなすことは会社にとっても当たり前であり、それが長く続く理由であるのだと思います。まさにシンブル、明快な結論です。社員たちが当たりの前を当たり前に



今でしょー古

出来なくなかった時、品質や会社の信頼の低下に繋がって、限界を迎えたときに倒産していくでしょう。

ただ、長く続いた理由はそれだけではないです。ヒントは代表の幼少期の頃、年長には相談役に連れられて得意先の会社へ必ず挨拶に行っていたそうです。仕事の面だけでなく、お客様や関係者への思いやり、感謝の気持ちがあったからこそ、カインズグループが90周年も続いているのだと感じられないでしょうか。

そして、我々ものづくりの会社が存続・繁栄していく上で欠かせないのが「商品力」です。世の中には様々な物で溢れ、個々の会社がいかにお客様が欲しいと思わせる商品を開発できるか試行錯誤していると思います。この「商品力」でお客様を魅了できる商品が開発できなくなると、ものづくりの会社は土台から崩れていきます。カインズグループも決して例外ではなく、過去に何度か倒産の危機に直面したことがあります。

社員の



★今期は毎月、社員の方に自分自身のことについて語っていただくコラムを掲載していきます。

●今回はヨシムラ部長です。



しかしここで大きな「挑戦の歩」を踏み出しました。その当時、社内では未熟だった電気回路設計の技術に力を入れるようになり、輸入車用キットをはじめとしたバリエーション豊かな製品群を展開していったことで、危機を脱するだけでなく飛躍的にシェアを拡大していくことができたのです。現状に甘んじず、お客様に是非扱わせてほしい！」と言って頂けた商品を作り出す――まさに「商品力の創出を怠るべからず」。



記事 オカダ

このように、今のカインズグループが未永く続いているのは、「一人ひとりが世の中が何を求めているか、そして自分は何をすべきか考え、自分のすべき仕事を遂行し、お客様や協力会社様に認められるブランドを築いてきたからこそだと思います。

100周年と言わず、200年、300年、果ては永久に会社を発展させていくためには、現状の環境に満足せず、社員全員が向上心を持つことです。常に自分たちがカインズグループの看板を背負っているのだという気持ちで、これからも仕事に励んでいきましょう。

経営統括部に入社しましたヨシムラです。銀行に長く勤めており、その時の縁で当社にお世話になることになりました。出身は、岐阜県の飛騨高山という山の中で、現在家内が一人、双子の姉妹を含む三人の娘と暮らしております。皆さんと机を並べさせていただいて、一番の印象は、若く元気のある企業という事です。しかも一つ一つの事を丁寧に行っているという印象が強いです。実際に日々の業務でいろいろ皆さんとの接点が増えてくるに付け、ますますこの印象が強くなってきています。別の言葉でいえば、基本ができていてしっかりとどころでしょうか。それだけに、将来に向けての大きな成長力を秘めているように感じています。その成長力に如何に火をつけたいくつかさねるのか、それが私の役目と感じております。今までの経験をフルに生かして、次の世代に向けて大きく飛躍できるように皆さんと一緒に「杯張り張りたい」と思います。よろしくお願いたします。

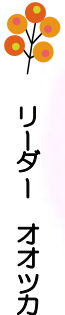
記事 ヨシムラ

カインズグループは今期創立90周年を迎えました。実は地下鉄も今年開通90周年だそうですよ！

「にこチキ」



FY18「ニコ」二十新人教育のリーダーを務めます、オオツカです。名前の由来ですが、「にこチキ」の「チキ」は今年の干支である鳥から取っており、チキらず何事にも挑戦しチャンスをつかむと意味をこめ決めました。私たちに「チキ」では、新入社員およびグループ社員が向上心を持って仕事に取り組める環境づくりをすることを活動目標として活動しております。私自身入社して3年目、初めてPJのリーダーを務めさせていただきましたが名前の由来通り何事にもチキらず全力を尽くし社員の皆様やチーム全体をここに置いていく所存でございますので今年一年間何卒宜しくお願い致します。



リーダー オオツカ



「ゴッドハンド」

FY18産学連携十社会貢献チームのリーダーを務めます、ソヤノです。チーム名である「ゴッドハンド」は、困った人へ手を差し伸べる。神の手のような存在になるという意味が込められています。今期は前期に引続き、実施していく項目が多くあります。その中で、「二つ二つの」ように内容をレベルアップしていけるかが私たちチームにとってのポイントとなると考えています。産学連携では、インターンシップ・職場体験、社会貢献では、木工教室。皆様のお力添えが必要不可欠となります。責任を持ちプロジェクト活動を通して成長していけるよう、より「層努力」してまいります。今後ともご支援とご協力の程宜しくお願い申し上げます。



リーダー ソヤノ

「かえるとラクダぞう」



前期に引き続きカイゼン5Sチームのリーダーを務めます、カンノです。今回のチーム名は「かえるとラクダぞう」と致しました。このチーム名には三匹の動物たちがいます。「かえると」には「変える」「改善する」、ラクダには「効率UPP」、ぞうには「やるぞー」という意味を込めました。前期の活動では至らない所ばかりでした。その反省も踏まえ、今まで継続課題としてきていたアクションプランの内容に見直しをかけ、皆様が取り組みやすい5S活動と改善活動を行えるようにしました。皆様のお力添えをいただきながら、メンバー一同、層の努力を重ねて参ります。



リーダー カンノ



「ザビリベロ」

FY18 伝道師十カインズノート+900周年環境改革チームのリーダーを務めます、サトウです。チーム名である「ザビリベロ」は、伝道師の象徴であるサビエルの名に、パレオの役割を担うザビエルを組み合わせ、目立たなくとも縁の下の力持ちとして会社構造を磐石にしたいとの意気込みが反映されております。今回は会社の制度改革を行うべく二つの特別な活動を手掛けます。一つ目は、女性社員がより活躍できる改革を、二つ目は社員の健康をより促進する改革を行います。また、事業所対抗レースでは、会社の売上拡大をより意識していただくためのレースを実施します。チーム名に恥じぬよう、会社の土台作りにも貢献してまいります。



リーダー サトウ

「カインズ 紋報部」



FY18グループ広報・新卒採用プロジェクトのリーダーを務めることとなりました。チーム名である「カインズ放報部 ほうほうぶ」は、「カインズの顔」として「報せを放つ」という想いを込めて命名しました。今期は90周年という記念の年になりますので、100周年に向けてステップアップになるよう、グループの知名度向上に努めます。また、SNSを使った広報活動についても、皆様が楽しく、外からもカインズグループの個性がわかるような発信を始めます。皆様の日々の取組みや、活動ひとつひとつが広報活動の原点です。今以上に、PR担当として精進してまいります。



リーダー オカムラ



「ラインK」

FY18危機管理チームのリーダーを務めます、フクダです。チーム名は引き続き「ラインK」です。「ラインK」のLとKが大文字になっているのを皆さんご存知ですか？「K」を大切にすることを意味以外に外側で大きな壁を作って中をきちんと守るという意味を込めています。ここ数年を見て大きな災害、サイバー攻撃や金融危機、取引先の倒産、新たな感染症の発生など、私たちが取り巻く環境は大きく変化しています。何か問題が発生した時に慌てふためくのではなく、速やかに対応が取れるようさらに体制を整えてまいります。合言葉「カインズグループは私が守ります。」の通りカインズグループを守る壁となるよう、頑張っております。



リーダー フクダ

代表後記

各プロジェクトチームが今期の意気込みを語ってくれました。今は若いメンバーにリーダーに就いてもらっていますが、これをどうみんなは捉えていますか、これをどううか。リーダーの動き一つで当然チームの雰囲気、活動内容も良きにも悪きにも大きく変わってきます。しかしリーダーだけでなく、チームや活動内容を動かせるわけでもなく、そこにはチームメンバーの動きも大切です。しかし私がもっとも重要視しているのは、リーダーのコーチ役につけている取締役の動きです。彼らがどう若いリーダーに対して、その役割を指導しているか、またチームメンバーをどう動かせるか、日く各チームの監督が彼らであり、各チームリーダーがキャプテンであると皆さんから見、各取締役がそう認識しているを見えますか。各チームメンバーの「因」になり切って、俺は黙って彼らがどう動かせやうかしているんだ。なんて恰好つけた言い方しているのかもいれませんが、結局やらせてみる結果に対して何か指導をしている風に見えますか？各チーム、もし監督に不満があったらどうやって下さい。なおこの活動の事務局役にヨシムラ部長が就いていますが、その存在役とするとやはり専務理事が専務総長役でしょう。この活動の趣旨を十分に理解して、みんなが円滑に活動できるように、目標が達成できるように指導する目録、監督である取締役を取り締まる役であらうかと思えます。もし専務理事の動きにも不満があるようでしたら連絡を下さい。兎に角、半年後の報告を楽しみにしています。